

令和4年度

宮城県遺跡調査成果発表会

発表要旨

令和4年度

# 宮城県遺跡調査成果発表会

## 発表要旨

会場：栗原文化会館  
日時：令和4年12月10日（土）  
10時20分～16時00分  
主催：宮城県考古学会  
共催：宮城県教育委員会  
栗原市教育委員会  
宮城県史跡整備市町村協議会

令和4年度 宮城県遺跡調査成果発表会 発表要旨

発行日：令和4年（2022）年12月10日

編集：宮城県考古学会企画幹事会

発行：宮城県考古学会

郵便振替口座 02210 - 1 - 41729

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内27-1

東北大学大学院文学研究科考古学研究室気付

e-mail info@m-kouko.net

印刷：有限会社中村印刷

〒981-4262 宮城県加美町字一本杉215

## 2021・2022年度姥沢遺跡の発掘調査の概要

三浦 紘<sup>1</sup>、椿野智之<sup>1</sup>、趙 娜<sup>1</sup>、廉 禕<sup>1</sup>、菅野智則<sup>2</sup>、鹿又喜隆<sup>1</sup>  
 (1 東北大学大学院文学研究科考古学研究室、2 埋蔵文化財調査室)

### 1. 調査要項

遺跡名称：姥沢遺跡（宮城県柴田郡村田町沼田字姥沢 80 番地：図1）  
 調査原因：学術調査  
 調査主体：東北大学大学院文学研究科考古学研究室、東北大学埋蔵文化財調査室  
 調査担当：鹿又喜隆（東北大学大学院文学研究科考古学研究室 教授）  
           菅野智則（東北大学埋蔵文化財調査室 特任准教授）  
 調査協力：村田町歴史みらい館  
           佐藤源之（東北大学東北アジア研究センター 教授）  
           齋藤龍真（同 助手）  
 調査期間：2022年3月20日～3月31日、2022年10月23日～11月4日  
 調査面積：21.14 m<sup>2</sup> (2021年度)、43.95 m<sup>2</sup> (2022年度)

### 2. 調査に至る経緯

姥沢遺跡の発掘調査は、2019年度より実施していますが、2021年度以降の調査は、東北大学文学研究科、東北大学埋蔵文化財調査室、村田教育委員会の3者による「文化財の研究・活用に関する相互協力協定」（2022年1月19日締結）に基づいて実施しました。この協定は、村田町に所在する文化財の研究・利活用を目指すものです。その事業の一環として、姥沢遺跡の調査研究・活用について実践しています。

### 3. 調査の目的

姥沢遺跡の発掘調査を通じて、縄文時代中期から後期にかけての居住形態の実態について研究することを目的としています。この時期には、急激な環境変動があり、集落遺跡の急減等の様々な大きな変化があったことがわかっています。姥沢遺跡の調査成果から、人類の環境変化への対応を考える上で重要な知見を得られるものと考えています。また、周辺地域の発掘調査事例では、往々にして関東や北陸系の土器が混ざるといった様相が見受けられます。この様な状況を踏まえると、本調査成果は、宮城県南部と遠隔地との地域間交流を考える上で、さらに重要な資料となることが考えられます。

### 4. これまでの調査

2019・2020年度の概要については、2020年度の本会資料集にて報告しています（東北大学大学院文学研究科考古学研究室・東北大学埋蔵文化財調査室 2020）。

その成果を踏まえ、2021年度は、6区の遺物包含層の端部を捉えるため、東側へ調査範囲を広げ、H・I-20区を設定し調査を行いました（図2）。さらに、東北大学東北アジア研究センターによる「最新科学による遺跡調査ユニット」（代表：佐藤源之）の活動としてGPR（地中レーダー探査）を行って頂き、その成果に基づいてさらに東のJ20区へと拡張しました。その結果、J20区ではかなり大型の土器片を大量に含む遺物包含層を確認することができました。2022年度は、J20区とさらに東のK20区を中心とした調査を行い、包含層を掘り下げ、その内容の確認を行っています。また、佐藤源之先生による地中レーダー探査も継続して実施しています。

## 5. 調査の概要

### (1) 基本層序

本調査区にける堆積層は、表土・盛土の1層、遺物包含層の2層、遺物を含む黒色土層の3層と、その下部の4層、地山層の5層からなります。各層は、それぞれの土質から細分することができました。とくに2層については、これまでの調査で確認した層を含めて、2a～2g層の7枚に細分できました。なお、4層については部分的に確認できたのみですので、3層に含まれる可能性もあると考えています。

### (2) H・I20区

本区では、遺物包含層の2b～2d層を確認しています。とくにI20区東端部の2b層下部からは、土器1個体が潰れたような状況で出土しています。この層の下部には、炭化物を多く含む2d層があり、さらに下には3層が広がっていました。2021年度調査では、3層を確認あるいは少し掘り下げた時点で終了としました。

### (3) J・K20区(図3)

1層直下より遺物包含層2b・2d層を確認し、さらにその下から炭化物を多量に含む土層(2e層)を確認しました。この土層には、完形に近い遺物や大型の土器片も多量に含んでいました。とくにK20区では、この2e層が比較的厚く堆積しており、その下部から同様に遺物を多量に含む2f層・2g層を確認しています。また、土坑を1基確認しています。

2022年度調査では、遺物が多数出土したことから掘り下げが進まず、2g層の途中で掘り下げを止めています。

### (4) その他の調査区(図3)

2022年度調査区周辺地域では、現代に畑作のための造成がなされたことを地権者より聞いておりました。そのことを示すように、J・K19区では、3層とほぼ同じ高さで地山層の5層を確認しました。J・K20区の調査成果を含め考えると、この地区では、土壌が南側へ傾斜して堆積したのちに、現代において水平に造成されたということがわかりました。また、I19区では、掘削途中に調査期間が終了したため、1層掘削中で止めています。ここでは、その現代の畑地耕作の痕跡が確認できています。

## 6. まとめ

2021・2022年度調査では、H～K20区を中心とした遺物包含層の規模・内容等の確認を行ってきました。2層とした遺物包含層は、東側に向かうほどに遺物の量が増し、サイズも大きくなり、炭化物も多量に混じっていました。おそらくJ・K20区周辺は、土器等を最初に捨てた場所に近いものと推定できます。その下の3層は遺物を含んでいますが、その量は多くはありません。この3層は、土の特徴などから、縄文時代の表土層と考えています。これらの土層は、北からほぼ南方向に向かい傾斜して堆積していることもわかりました。深く掘り下げた場所では湧水があることから、この南側には、沢が位置しているものと推定できます。

今後は、この遺物包含層の調査を継続すると共に、この遺物包含層を形成した人々が居住していた場所を探索するため、遺物包含層より上方を調査したいと考えています。

## 謝辞

この発掘調査については、地権者の村上侃彦氏からは大変なご協力と厚いご配慮をいただきました。文末に記し、御礼申し上げます。



図1 姥沢遺跡の位置と周辺の遺跡  
(2020年測量1/25000地形図『村田』・『大河原』を改変)

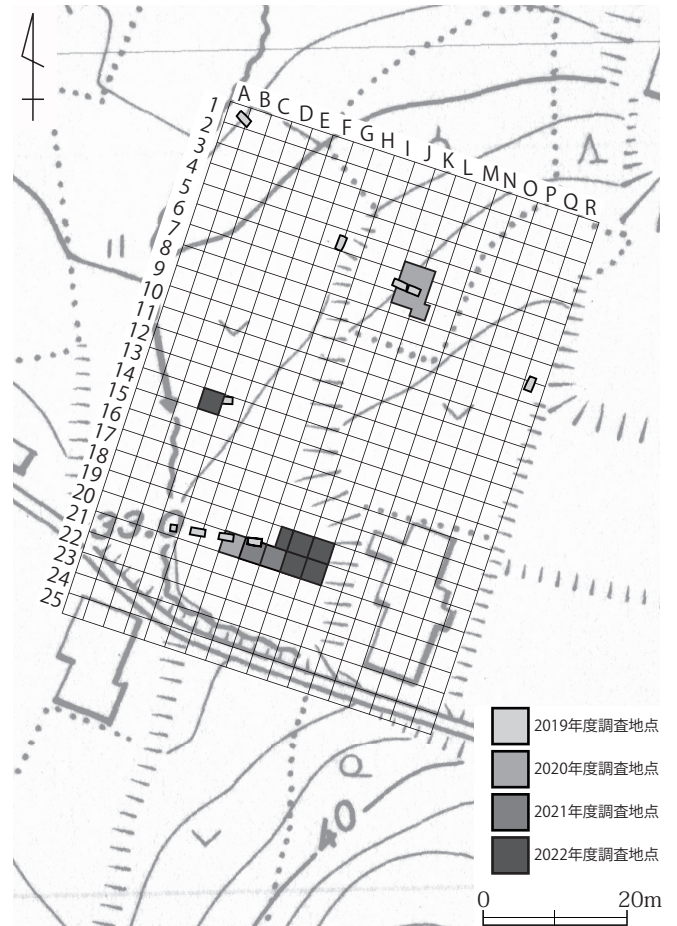


図2 調査区配置図  
(村田町1985年測量図「X-RD17-1」S=1/2,500を改変)



1. 2022年度I・J・K各区調査終了状況全景(左が北)



2. K20区遺物出土状況(南から)



3. K20区遺物出土状況拡大(北から)

図3 2022年度調査状況



- 1 : J20 区 2d 層出土の後期前葉の縄文土器。深鉢で胴部に蕨手文が施文され、磨消縄文技法が用いられているが、磨り消しが不十分で区画内に縄文が残る。
- 2 : I20 区 1d 層出土の後期前葉の縄文土器。立体的な波状口縁となる。突起部には円形に沈線を施し、突起部をつなぐ隆帯の上に 1 条の沈線を引き、部分的に竹管状工具を用いて刺突文を施す。胴部に逆 U 字状の沈線を描き、縄文はその沈線の区画内に施す。
- 3 : I20 区 1 層出土の土製腕輪。縁辺と平行する沈線が複数引かれ、片端は欠損している。胎土が白い。仙台市下ノ内浦遺跡でも同タイプの腕輪がある。
- 4 : I20 区 3 層出土の土製耳栓。長さ約 4 cm の完形品である。鼓のような円柱状をしており、中央は貫通孔となる。表と考えられる面の沈線を円形に 1 条施し、その上下に列状の刺突文に沿わせる。裏面は刺突文が 1 列のみ施文される。
- 5 : J20 区 2d 層出土の珪質頁岩製の石鏃。左下半部を欠損している。基部は無茎で長身であり、基部の扱りは深い。側縁は鋸歯状を呈している。
- 6 : J20 区 2d 層出土の玉髓製の石鏃。完形で凹基無茎となる。長身で基部の扱りが深く、中央部が膨らみをもつ。
- 7 : J20 区 2d 層出土の黒曜石製の石鏃。完形で凹基無茎となる。浅く細長い周縁調整によって、器面の両面加工がなされる。
- 8 : H20 区 2a 層出土の珪質頁岩製の石鏃。急角度の押圧剥離が施されており、側縁は鋸歯状を呈する。
- 9 : K20 区 2e 層出土の軽石製凹石。両面の中央部に凹みが見られる。

図4 姥沢遺跡出土遺物